

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年3月31日

学校法人ゆうあい学園 ゆうあい幼稚園

1. 本園の教育目標

- 健全な心身の基礎を培う
- 自立と協同の態度及び道德性の芽生えを培う
- 豊かな心情や思考力の芽生えを培う
- 喜んで話したり、聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養う
- 豊かな感性を育て、創造性を豊かにする

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 自主的に生き生きと活動を展開できる環境を構成する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	遊びが充実するように幼児の発達にそった環境構成に取り組む。	B	ごっこ遊びに向けて、絵本の世界をテーマとして年度当初から取り組んだ。子ども達が好きな絵本の世界をそれぞれの年齢に合わせて内容やイメージを共有でき、一つの遊びから大きな遊びに発展させられることができた。
2	幼児の姿を多面的に捉え、幼児の育ちを理解する	C	写真やエピソードを通して幼児の育ちを語り合う機会を持つことは出来なかったが、保育者同士の日常的なコミュニケーションから改めて、幼児理解の大切さを学んだ。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	コロナ禍で活動に一定の制限をせざるを得ない難しい状況の中で、ごっこ遊びの取り組みの中から、改めて幼児の発達や興味関心にそった環境構成の重要性を学んだ。取り組みは学年度末まで継続するようつながりを持った活動となり、良い実践となった。逆に幼児理解についてはより充実したものにするため、幼児の育ちを語り合う機会を具体的に持つなど意識して取り組み、園全体の保育の質のさらなる向上につなげていきたい。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	幼児理解	保育の記録として、幼児同士のかかわりの姿を写真に撮り、学年でHPのブログを更新し、幼児の育ちを保育者同士で語り合い、幼児理解を深める。
2	地域との連携	コロナ禍で中断していた地域とのかかわりを少しずつ取り入れる。社会見学や小学校見学など年長児の活動を中心に組み込んでいく。
3	教育要領の理解	保育の資質向上の一つとして、要領に沿って根拠のある保育を展開出来るよう月反省の際に改めて幼稚園教育要領を見返し、話し合う機会を持つ。

6. 学校関係者評価委員会の評価

子どもに対しての真剣に向き合っている姿勢が感じられ、子どもたちが大事にされていると感じた。コロナ禍で難しい面も多々あると思うが、出来ないことに注目するのではなく、どうすれば出来るのを考え、保育を進めていたことは大変素晴らしいと思った。一人ひとりを大切にされた保育がなされていると感じる。これからも保育者が連携して、よりよい保育を目指して行ってほしい。